

# 岐阜市の小学生を対象とした公園利用に関するアンケート調査

岐阜工業高等専門学校 学生会員 ○加藤愛理  
岐阜工業高等専門学校 正会員 廣瀬康之

## 1. はじめに

現在の我が国では、都市化が進み、子供達が自由に遊ぶことのできる場所は限られ、幼い頃から室内で過ごすことが多いのが現状である。そこで現在では「潤いのある町づくり」が重要な価値の一つとして考えられている。そうしたなか、私達の生活に潤いを与える空間として公園が挙げられる。しかし、現在の公園は、公園を管理する行政に子供達の意見が届いておらず、子供達にとって魅力的な空間であるとは言い難いのではないだろうか。子供達が公園に望んでいることは、人や土地によって異なり、これを聞き入れなければ、公園施設の発展は見込めないだろう。

そこで本研究では、岐阜市教育委員会の協力を得て、岐阜市内の小学校 48 校の生徒を対象にアンケートを実施し、子供達が公園に望んでいることをデータとして整理し、今後の公園管理を行う際に役立つ資料を作成することを目的とする。また、その結果をもとに“現在の子供をとりまく環境”、“多様な体験の重要性”、“地域での活動と都市公園との関係”の 3 点に重点をおいて分析を行う。

## 2. 岐阜市の公園事情

人口一人当たり開設都市公園面積の岐阜市平均は 8.45m<sup>2</sup>/人と、全国平均 9.30m<sup>2</sup>/人を下回る結果となっている。

アンケートの参考材料とするため、過去の研究<sup>1)</sup>を元に、岐阜市に存在する小規模公園の設置数・1人当たり面積を以下に示す。岐阜市の北側では公園の設置数が多く、一人当たり設置面積も広い。これらの地域は区画整理が十分になされておらず、新規に公園を設置しやすかったことが理由として考えられる。反対に岐阜市の南側では公園の設置数が少なく、1人当たり設置面積も北側に比べ狭い。この地区では、人口集中地区が多く、区画整理されており、公園を設置するスペースがないという現状が表れている。また岐阜市の中央部では設置数・1人当たり設置面積ともに極端に少ない。この地域は、岐阜市の中心部に位置し、小規模公園以外の公園が多く設置されているために、小規

模公園の設置数が少なくなっている。

## 3. 公園利用に関するアンケートの実施

ここまで、岐阜市の公園事情について考察を行ってきたが、次は実際に公園の利用者である子供達にアンケートを実施し、資料では得ることのできない公園の魅力や問題点を考える。

### 3.1 アンケート実施概要

アンケートは岐阜市内の小学校 48 校において、それぞれ小学校 2 年生から 1 クラス、5 年生から 1 クラス、各クラス 40 部ずつ、計 3840 部を配布した。回収率は、学校によってクラスの人数が異なるため、全部で 2699 部の回収となった。しかし、全学校全クラスから回収ができたので 100%の回収率といて良いだろう。今回配布したアンケート用紙を図 1 に示す。

図 1 公園利用に関するアンケート用紙

### 3.2 アンケート集計方法

集計の結果、小学校区ごとで比較を行うにはデータが少なく不十分であると考えられたため、岐阜市を 5 ブロックに分けた地域ごとで調査を行なった。

### 3.3 アンケート集計結果の考察

ここに全てのデータを示すことは不可能なので、以

下にアンケート集計の一例として結果の一部を示す。

**質問事項：公園に行く目的は何か？**

・学年別集計

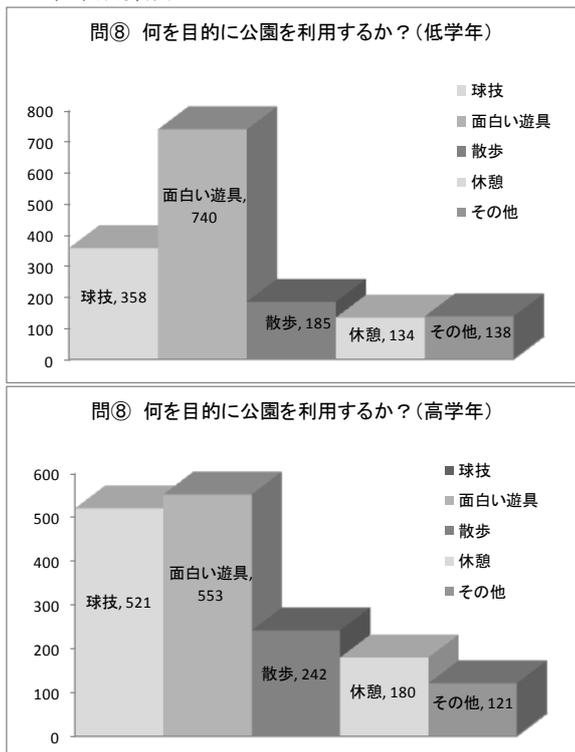


図2 集計結果(学年別)

・5ブロック別集計

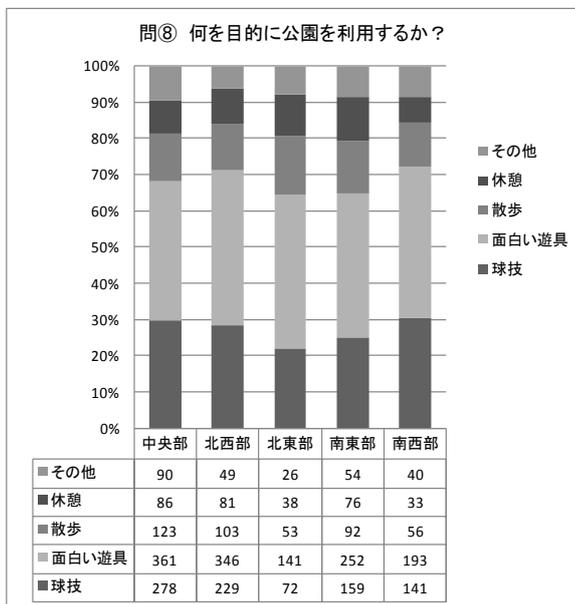


図3 集計結果(5ブロック別)

この質問の回答から、公園に機能性を求めているのか、快適性を求めているのか知ることができる。低学年ほど公園を遊ぶ場所として認識するため、面白い遊具など公園に機能性を求める。一方、学年が上がると、遊具遊びを行わなくなって、遊びの内容が変化してくることから休憩、散歩といった快適性を求めると考えられる。また、球技などができる

といった機能性も求められていることがわかる。

**4. 研究のまとめ**

同一地区の小規模公園が均一な仕様で、ほぼ同時期に整備が完了し、利用のされ方も似通っており、しかも同じような管理が行われていることが「どこの小規模公園も同じでつまらない」として利用者に不満を与えている。それでも標準的に配置されていることもあり、小規模公園の数や位置については概ね満足している子供が多い。これより、利便性よりも機能性や快適性の方が重要であるということが分かる。

小規模公園の利用の仕方は季節により多少異なると考えられるが、遊具遊びや鬼ごっこ、ボール遊びを中心に利用されている。ただし、子供が希望する遊びとしては自然の遊び、あるいは危険を伴う遊びも挙がっており、子供達は周辺に魅力のある公園があれば、多少遠くても自転車を利用して小規模公園を目的に合わせて使い分け、楽しんでいるようである。

**5. おわりに**

今回の研究では、主にアンケートを集計することを中心として行なった。そのため、今後の課題はアンケートの解析をさらに行ない、より地域住民全体との関係について調査していくことである。これらの子供の意見を取り入れた公園を運営・管理していくことは実際には難しいと考えられるが、今回分かった子供が公園へ望むものを実現する際に問題となる点を明らかにし、今回のアンケート調査で子供達が求めている声の1つでも実現できたら、非常に喜ばしいことである。また、子供のための遊び場は、必ずしも大人が望むような空間とは一致せず、時に対立する場合があると考えられる。子供は廃材や泥のある空間で熱中して遊ぶが、そのような空間を大人は危険、不衛生と考える。大きな公園であれば、エリアを区切って整備し管理運営することにより、それぞれのニーズを満たすことができるが、小さな公園においては困難が伴う。一つ一つの公園には機能が限定されてしまいが、地域内にある複数の小規模公園は各々の機能や特色を備えているため、地域全体としてのニーズを達成することができると考えられる。

**参考文献**

1) 廣瀬康之・山田智則・名知幹弘:アンケート調査による岐阜市における公園整備の現状と課題,平成19年度土木学会中部支部研究発表概要集 IV-29, 323, 2008